

第 1 問

(設問 1) 40 字 配点 5 点

記入日	字数	点数	内容
8/14	40	3	鑄造工程の生産能力の増強 <sub>1</sub> に加え、鑄造から塗装までの一貫生産体制 <sub>2</sub> が確立されている。
9/26	40	5	鑄造工程の生産能力の増強 <sub>1</sub> と機械加工工程 <sub>1</sub> ・塗装工程の新設 <sub>1</sub> により確立した一貫生産体制 <sub>2</sub> 。
10/15	38	5	鑄造工程の高い生産能力 <sub>1</sub> と機械加工工程 <sub>1</sub> ・塗装工程の新設 <sub>1</sub> で確立した一貫生産体制 <sub>2</sub> 。

→「(設問文) 強みは⇒(回答) 生産能力の増強に加え、一貫生産体制が確立されている」と一文で読んだときに違和感がある。  
→「強み⇒○○力」と書くように意識をしている。

40 字 配点 5 点

記入日	字数	点数	内容
8/14	40	3	鑄造技術に精通 <sub>1</sub> した中堅エンジニア <sub>1</sub> 3 名が在籍する営業部で新市場開拓の経験 <sub>1</sub> がある。
9/26	35	5	鑄造技術に精通 <sub>1</sub> した中堅エンジニア <sub>1</sub> 3 名を有する営業部 <sub>2</sub> による新市場開拓力 <sub>1</sub> 。
10/15	34	5	鑄造技術に精通 <sub>1</sub> した中堅エンジニア <sub>1</sub> が所属する営業部 <sub>2</sub> による新市場開拓力 <sub>1</sub> 。

→「強み⇒○○力」と書くように意識をしている。

(設問 2) 100 字 配点 15 点

記入日	字数	点数	内容
8/14	95	6	メリットは、①外部環境変化の影響を受ける建設資材の売上依存脱却 <sub>3</sub> 、②産業機械部品の取引先との関係強化、③自動車部品の製造に新たに取り組むことによる軽量化、複雑経常化などの鑄造技術の向上 <sub>3</sub> 、である。
9/26	91	14	メリットは、①新規顧客獲得 <sub>2</sub> による売上拡大 <sub>3</sub> と工場の稼働率向上 <sub>3</sub> 、②外部環境の影響を受けやすいマンホール蓋への売上依存解消による経営リスクの低減 <sub>3</sub> 、③自動車部品の製造ノウハウの獲得 <sub>3</sub> 、である。
10/15	97	14	メリットは、①新規顧客獲得 <sub>2</sub> による売上高の向上 <sub>3</sub> 、②外部環境や季節変動で受注量が増減するマンホール蓋への売上依存度低減による経営リスクの回避 <sub>3</sub> 、③工場の稼働率向上 <sub>3</sub> によるコスト削減と生産効率化 <sub>3</sub> 、である。

→言いたいことはなんとなくわかるが、文段的に理解しづらい。  
→メリットを問われているので「メリットは、」と答える事を意識している。

→「因⇒果」で書くように意識をしている。

(設問 3) 100 字 配点 15 点

記入日	字数	点数	内容
8/14	99	8	短納期対応として①鑄造後仕掛品削減 <sub>3</sub> による製品移動、設備間移動の効率化、②ネック工程である機械加工工程の段取り作業を外段取り化 <sub>3</sub> などにより短縮、③作業員の能力向上による機械加工工程の空転時間を削減 <sub>2</sub> する。
9/26	99	6	改善策は、①ネック工程の機械加工工程の段取り作業や製造脱着作業を標準化 <sub>2</sub> することで稼働率を向上させ、②鑄造工程後の仕掛品を減少させることで仕掛品置き場を縮小し、移動効率の向上で製造リードタイムの短縮 <sub>4</sub> を図る。
10/15	98	15	改善策は、①全工程の生産計画を立案 <sub>4</sub> して納期を基準とした加工順を定める <sub>3</sub> ことで全体最適化し、②鑄造工程後の仕掛品を削減 <sub>3</sub> することで製品や設備間の移動を効率化 <sub>3</sub> し、製造リードタイム短縮 <sub>4</sub> による短納期化を図る。

→要点だけ一文で読むと、「短納期対応として、移動効率化、作業短縮、空転時間削減する」となっていて違和感がある。

→要点だけ一文で読むと「改善策は、稼働率の向上、製造リードタイムの短縮」となっていて違和感はないが、説明がやや冗長。  
仕掛品削減の方法が書けていない。

→要点だけ一文で読むと「改善策は、①全体最適化、②移動を効率化、による製造リードタイムを短縮で、短納期化を図る」と因果＋効果でかけている

平成 27 年度 事例Ⅲ ～時期別の解答～

第 2 問 100 字 配点 20 点

記入日	字数	点数	内容
8/14	100	8	鑄造工程優先投資により、後工程の生産能力を超えた鑄造工程後仕掛品が生じる <sub>4</sub> ためラインバランシング <sub>4</sub> が必要。また、工場全体の生産能力を鑄造工程の処理能力で把握することで過受注となるため全工程処理能力で把握する
9/26	92	6	問題点は納期遅延 <sub>2</sub> である。改善策は、①工場全体の生産能力を全工程の処理能力で把握 <sub>4</sub> し過剰受注を防ぐ、②生産工程は全工程を対象に作成し加工順も予め定めることで生産の全体最適化を図る、である。
10/15	92	9	問題点は機械加工工程の日常的な残業の発生 <sub>2</sub> である。改善策は、①生産能力を全工程の処理能力で把握 <sub>4</sub> 、②段取り作業の外段取り化 <sub>3</sub> 、③製造脱着作業の標準化・マニュアル化、により稼働率の向上を図る。

第 3 問 120 字 配点 20 点

記入日	字数	点数	内容
8/14	93	5	農業機械部品や産業機械部品は受注生産のため、後工程が使用した分だけ前工程で生産するプル型の後工程引取方式により納期管理を行う。情報は生産計画 <sub>2</sub> などの日程、在庫品や仕掛け品などの現品 <sub>3</sub> 、従業員や設備などの余力 <sub>3</sub> の情報を活用すべきである。
9/26	116	12 (情報 MAX 8 点)	納期管理はデータベースで一元管理 <sub>4</sub> し、各部で情報を共有して行う。活用する情報は、営業部が得た顧客管理情報、品種・数量・納期などの受注情報 <sub>3</sub> 、図面等仕様書 <sub>2</sub> 、生産計画、現品・余力・進捗状況などの生産統制情報 <sub>3</sub> 、見込生產品の在庫管理情報 <sub>3</sub> 、等である。
10/15	114	12 (情報 MAX 8 点)	活用する情報は、営業部が得た顧客情報、受注情報 <sub>3</sub> 、図面等仕様書 <sub>2</sub> 、生産計画 <sub>2</sub> 、生産統制情報 <sub>3</sub> 、製品・仕掛品等の在庫情 <sub>3</sub> 報である。これらをデータベース等で一元管理 <sub>4</sub> し、各部門が情報を共有することで生産を全体最適化して納期管理を行うべきである。

第 4 問 120 字 配点 20 点

記入日	字数	点数	内容
8/14	96	11	①従業員の高齢化 <sub>1</sub> がすすんでいるため作業環境を改善 <sub>2</sub> して若手人材を確保する。②顧客から軽量化、複雑形状化 <sub>3</sub> を要求されているため、鑄造技術の向上 <sub>4</sub> を行う。③新規受注獲得のために短納期化 <sub>1</sub> が要求されているため、I T 化推進による納期管理の徹底を行う。
9/26	120	12	①若手人材を確保し技術継承 <sub>3</sub> して競争優位を保つために作業環境改善 <sub>2</sub> を強化する。②受注量が増加傾向にある農業機械部品や産業機械部品メーカーから軽量化・複雑形状か要求 <sub>3</sub> が増しているため、鑄造技術を強化 <sub>4</sub> する。③品種が多く受注量の季節変動が大きいマンホール蓋依存軽減のため新市場開拓力を強化する
10/15	114	17	強化点は、①顧客からの軽量化・複雑形状化要求に対応 <sub>3</sub> するための鑄造技術の向上 <sub>4</sub> 、②若手人材を確保し技術継承を行う <sub>3</sub> ための作業環境の改善 <sub>2</sub> 、③新市場開拓 <sub>1</sub> のためのエンジニア育成による営業力の強化 <sub>3</sub> 、である。これにより競合他社と差別化 <sub>1</sub> して競争優位性を確保することで売上高の向上を図る。

ふぞろい採点 (8月 14 日) 合計 44 点／100 点 (9月 26 日) 合計 60 点／100 点 (10月 15 日) 合計 77 点／100 点

解説メモ

→言いたいことはなんとなくわかるが、文章的に理解しづらい。  
→与件文の言葉を使えていない。

→「残業が発生しているからどのような問題が生じているのか、まで」書けていない。

→知識に寄った解答になっている。  
事例企業の状況に沿った提案になっていない。

→「情報＝データベースで一元管理」という鉄板解答が身に付く。

→「生産を全体最適化」をもう少し具体的に書いたほうが良かった。  
「生産統制を行う、全工程を通した生産計画、納期を基準とした工程管理」など。

→若手人材を確保して、「どうする」まで提案できていない。  
→強化点と理由の書き方が曖昧でわかりづらい。

→「理由→強化点」というフレームで書こうと頑張っているが、一文が長くて読みづらい。

→要点を読むと、「強化点は、鑄造技術の向上、作業環境の改善、営業力の強化である。これにより差別化して売上高向上を図る」となっており、効果まで意識して書いている。